

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 10 月 29 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (10/29 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.9 m ³ /h	28.3	107.2 kPa abs	A系： 0.05 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.05 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.4 m ³ /h	37.7	10.50 kPa g	A系： 0.05 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 0.0 m ³ /h	37.4	0.23 kPa g	A系： 0.11 vol%
		給水系：約 5.4 m ³ /h			B系： 0.10 vol%

*1: 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

・H25/10/16 10:09 頃 ~ 2号機サプレッションチェンバ内部の気体が原子炉格納容器ドライウェル側へ移動していることの有無を確認するための窒素ガスの封入を実施中。

[3号機原子炉建屋5階中央部近傍(機器貯蔵プール側)での湯気発生状況]

・H25/10/29 7:55 頃 湯気をカメラにて確認。(気象データ(10/29 8:00 時点)): 気温 14.9、湿度 92.9%)
プラント状況、モニタリングポスト指示値等に異常なし。

・H25/10/29 16:00 頃 湯気をカメラにて確認できないことを確認。(気象データ(10/29 16:00 時点)): 気温 17.3、湿度 77.4%)

[3号機原子炉注水流量変更]

・3号機原子炉建屋1階のガレキ等撤去作業において、炉心スプレイ系の注水ラインの近傍で作業を実施することから、念のため、炉心スプレイ系からの注水を停止し、給水系で全量注水する対応を検討中(注水総量は変更なし)。対応の実施可否を事前に評価するため、段階的に注水量を変更した状況での原子炉への冷却状態の影響を確認することとしており、10/22 13:37、3号機の原子炉注水について給水系を 2.0m³/h から 3.5m³/h、炉心スプレイ系を 3.5m³/h から 2.0m³/h へ変更。その後、10/24 10:25 から 10:58 において、給水系を 3.5m³/h から 4.5m³/h、炉心スプレイ系を 2.0m³/h から 1.0m³/h へ変更。その後、10/28 13:25 から 13:30 において、給水系を 4.3m³/h から 5.5m³/h、炉心スプレイ系を 0.9m³/h から 0.0m³/h へ変更。変更後の原子炉注水流量は安定しており原子炉压力容器下部温度等に有意な変動は確認されていない。引き続き、監視強化する。

* 流量変更時の計器指示値

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (10/29 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	20.0
2号機	循環冷却システム	運転中	18.6
3号機	循環冷却システム	運転中	17.7
4号機	循環冷却システム	運転中	26

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

・H25/10/30 1号機使用済燃料プール循環冷却設備電源切替盤の点検に伴い、約7時間停止予定。なお、1号機使用済燃料プール水温は、10/29 11:00 時点で 20 あり、冷却停止時のプール水温度上昇率評価値は 0.069 /h で停止中のプール水温上昇は約1 と評価されることから、運転上の制限値 60 に対して余裕があり、使用済燃料プール水温度の管理上問題なし。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設（プロセス主建屋）	10/25 10:58～ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設（雑固体廃棄物 減容処理建屋 [高温焼却炉建屋]）	10/22 14:53～ 移送実施中

・7/16 13:00～ 5,6号機屋外の仮設タンク(9基)には、震災時に5,6号機各建屋に流入した海水および地下水(メガフロート水)を貯蔵しているが、本仮設タンク水を5,6号機タービン建屋滞留水と同様に淡水化处理(RO)を行うため、6号機北側にあるFエリアタンクへ移送を開始。

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (10/29 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	運転中	運転中*	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	A系・C系 ホット試験中

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/8/8 12:55～ 6/15 に多核種除去設備(ALPS)A系で発生したバッチ処理タンクからの水漏れについて、現在A系で実施している腐食防止対策をB系でも実施するため、同B系を停止。同C系は、再発防止対策を実施した上で、9/27 にホット試験を開始。

多核種除去設備(ALPS)A系は、バッチ処理タンクのすき間腐食による貫通欠陥の再発防止対策、水平展開、および腐食発生・促進リスクの低減処置が完了したことから、10/28 10:08 にホット試験を再開。同B系は11月以降を目処にホット試験を再開予定。

< 5. その他 >

・H25/10/21 13:50～ 6号機において、燃料集合体を原子炉内から使用済燃料プールへ移動させる作業を実施中。

・H25/10/23 11:10～ 4号機使用済燃料プールに保管された燃料の取り出しに向け、燃料取り出し用カバー内空気を換気するための換気設備(給気フィルタ、送風機、排気フィルタ、排風機等で構成)の試運転を開始。当該換気設備については、本格運用前の10/23 から10/30まで試運転を行い、10/31に検査を受検する予定。

・H25/10/28 1号機原子炉格納容器ガス管理システムのチャコールフィルタ・粒子状フィルタのサンプリングを実施。

・H25/10/28 1号機原子炉建屋上部において、ダストサンプリングを実施。

[H4エリアタンク・B南エリアからの水の漏えい関連]

< 最新のパトロール実績(10/28) >

- ・高線量当量率箇所(+ 線(70 μ m線量当量率))は確認されず。
- ・堰床部に雨水が溜まった箇所については、雨水による遮へい降下により線量当量率は低い状態となっている。
- ・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと(漏えい確認が出来ていない堰内溜まり水内を除く)を確認。
- ・サーモグラフィーによる水位確認によりタンク水位に異常がないことを確認。

< H4エリア周辺のサンプリング実績 >

- ・10/28 採取分の地下観測孔E-1～E-5の分析結果については、前回と比較して有意な変動は確認されていない。引き続き、監視を継続する。

< 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

- ・10/28 採取分 B排水路内採取地点(B-1)(B-2)の全ベータ値は、(B-1)が920 Bq/L、(B-2)が31,000 Bq/Lと10/27採取の値(B-1が7,800 Bq/L、B-2が45,000 Bq/L)に比べて低下し、B排水路内採取地点(B-3)の全ベータ値は、21,000 Bq/Lと10/27採取の値(4,800 Bq/L)に比べて高くなっている。これは、B排水路溜まり水の回収をB-3点で行っていること(B排水路の上流側水(B-1)(B-2)が下流側(B-3)に移動)により生じていると考えている。その他の地点の分析結果については、前回と比較して有意な変動は確認されていない。引き続き監視を継続する。

【タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況】

<トピックス>

- ・1・2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は
10/29 0:00 時点で約 4,973m³ *集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・今回新たに掘削した地下水観測孔 No.0-4 のガンマ核種および全ベータの分析を実施。

地下水観測孔 No.0-4(10/27 採取分)

セシウム 134: 検出限界値未満(検出限界値:0.38Bq/L)

セシウム 137: 検出限界値未満(検出限界値:0.49Bq/L)

全ベータ : 検出限界値未満(検出限界値:19Bq/L)

トリチウム : 13,000Bq/L

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<トピックス>

- ・H25/7/1 ~ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。(有意な変動なし)
- ・H25/10/3 ~ 地下貯水槽 No.1 の汚染範囲調査開始。
- ・H25/10/23 ~ 地下貯水槽 No.6 において浮き上がり対策を実施中。
- ・H25/10/28 地下貯水槽 No.1について、天端中央を中心に 12cm程度の浮き上がりを確認。原因としては、地下貯水槽 No.3 ~ 6と同様に、地下貯水槽周辺の地下水位の上昇に伴って浮力が増加することにより浮き上がりが発生したものと推定。また、地下貯水槽 No.1ドレン孔水および漏えい検知孔水の分析結果に有意な変化は認められていないことから、浮き上がりによる汚染水の漏えいはない。引き続き、当該浮き上がり対応策を検討するとともに地下貯水槽ドレン孔・漏えい検知孔水の分析結果について監視を強化する。

以上